

こども

清川泰次が写した昭和のこどもたち

Photographs of *Child* in the Showa era taken by Taiji Kiyokawa



世田谷美術館 成城分館 清川泰次記念ギャラリー

2007.12.01 sat — 2008.03.30 sun



こども

清川泰次が
写した昭和の
こどもたち

Photographs of *Child*
in the Showa era
taken by
Taiji Kiyokawa



しろがね くがね
「白金も 銀も玉も 何せむに 優れる宝 子にしかめやも」※——千年以上も前に詠まれた短歌に現代の我々が深い感銘を感じるほど、「こども」は我々にとって普遍的な存在です。誰もが「こども」だった時期があり、いつしか大人へと成長を遂げ、次なる「こども」と接する。人間はそうした螺旋を辿るように、途絶えることなくその文化を育ててきました。

しかしながら、親が子どもに抱く愛情は変わらずとも、「こども」自身がどの時代も全く変わらないのかというと、決してそうではありません。その時代や社会のあり方によって、「こども」は海原に浮かぶ小船のごとく揺れ動いてしまうのです。ことに、明治時代から終戦を迎えるまでの百年足らずの間ほど、「こども」が変化を遂げた時代はありませんでした。

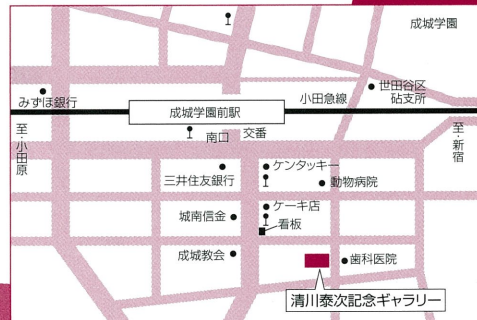
戦後に抽象画家として活躍する清川泰次が昭和十年代、大学生の時に撮影した無数の白黒写真にも、何百点もの子どもの写真が含まれています。生まれたばかりの新生児から、室内で佇む赤ん坊、外で遊ぶ学童、撮影会のモデルの少女など、その姿や表情は千差万別ですが、彼の残した写真は、当時の子どもたちが当時どのような生活をしていたのか、そのありのままを知る格好の証言となるはず。本展では、一人の青年が残した子どもたちの写真を軸に、その昭和初期という類稀な時代に迫りながら、当時の「こども」の真の姿を探ります。

※山上憶良『万葉集』

2007.12.01 sat — 2008.03.30 sun

世田谷美術館 成城分館 清川泰次記念ギャラリー

- 開館時間／10:00～18:00(入館は17:30まで)
- 休館日／毎週月曜日(ただし休日と重なった場合は翌日、年末年始・12月29日～1月3日)
- 観覧料／一般200円(160円)、高校・大学生150円(120円)、小学・中学生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円)
- ※()内は20名以上の団体料金。小・中学生は土・日・祝日無料。
※障害者で小・中・高・大学生、及び障害者の介護者(当該障害者一人につき、一人に限る)は無料。
- お問い合わせ／〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17
TEL:03-3416-1202 <http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>
- 最寄交通機関のご案内／小田急線「成城学園前」駅南口から徒歩3分



本館情報

世田谷美術館 〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL:03-3415-6011(代)

分館情報

会期:12月1日(土)～2008年3月30日(日)

企画展

「パラオーふたつの人生
鬼才・中島敦と日本のゴーギャン土方久功」 開催中—2008年1月27日(日)
「イリヤ・カバコフ『世界図鑑』—絵本と原画—」 2008年2月9日(土)—4月6日(日)

収蔵品展 「追悼—上野泰郎展」 12月11日(火)—2008年4月4日(金)

駒沢分館 向井潤吉アトリエ館 〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL:03-5450-9581
「日本風景紀行—向井潤吉の自然観—」

奥沢分館 宮本三郎記念美術館 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13 TEL:03-5483-3836
「宮本三郎の書斎—絵画と書籍—」